製本のススメ　Vol. 42

いよいよ夏本番！休暇の予定もバッチリで、心は遥かかなたって感じでしょうか？それともECOと称して自宅待機？温暖化で外は暑いですが、財布の中身は寒いのが現実かな～

今回は修正出来ない不具合のお話（３回目）

今回はクリープの説明をいたしましょう。紙を何回も折っていくと、紙の角がずれてきますね。ちゃんと角を合わせて折っているはずなのに、やっぱりズレて行きますね。これが**クリープ**（小口の紙ズレ）です。製本作業では、この紙ズレが命取りなのですがそんな事はお構いナシ！の印刷物が最近増加中です。では何故ダメなのでしょう。No8号でも紹介していますが、**製本作業は【紙揃え】**なのです。**←これ重要です！**
印刷物の内容によっては、見開きのある本文をトンボで折らず、絵が合うように折る事があります。当然、小口側は紙がずれていますが、**折山側は直角に出来ています**から、揃えも良く仕上がりも綺麗なのです。

製本のススメでは初回から**【左開きは天袋・右開きはケシタ袋】**と何度も書いていますが、その理由の一つがコレです。例えば本文の殆どが天袋折（折山が上）であるのに、１台だけがケシタ袋（折山が下）では、その１台だけは、不揃いのまま製本しなくてはならず**罫線も絵も合いません**そんな印刷はしないよと言われそうですがこれが結構多く、特に何箇所かで印刷をわけた場合に、自社では天袋で印刷しているのに、外注先ではケシタ袋、さらにカラーは出力だから用紙が規格寸法しかない！と言う事が現実に発生しています。こうなると絵や線が見開きで合わないのは当り前ですが、クライアント様達には関係が無いので、**当然　クレームになります。**
しかし、この紙ズレはどうにもし難く、用紙に厚みが有る以上、避けて通れない不具合なのです。製本では、この不具合を避けることが難しい為、ぜひとも印刷（製本前）の段階で修正をして頂かないとなりません。

印刷と製本には、幾つか共通の約束事がありますが、それらは今回のような修正出来ない不具合を避ける為の物で、技術が進化しても、この約束は変りません。良い製品を作るには、良い材料が必要なのです。

Teabreak

夏といえば海ですね。海と言えば船ですが、船の名前には〇〇丸とついています。なぜ[丸]と呼ばれる様になったのでしょう。昔の人の名に[麿]と言うのがあります。この麿は人の名前だけでなく、愛用品にも付けられましたが、この呼び名が時代と共に『まろ』から『まる』へと変化したのだそうです

by（株）井関製本